

ないようなすばらしい力がイエシュさまから迸り出て、何でもたちどころに治してしまつたからでござる。

三三・幸せと不幸せ

参照 マタイ 5 1-12

20 イエシュさまは目を上げて弟子たちを眺めて、こう言いなさつた。

「幸せなのだぞ、こころ乞食たちよ！

神さまのお取り仕切りはお前さんたちのものだ。

21 幸せなのだぞ、今腹が減っているお前さんたちよ！

腹いっぱいになるまで食わせていただけける。

幸せなのだぞ、今泣いているお前さんたちよ！

腹の底から笑う日が来る。

22 《人の子》である俺のせいで、人がお前さんた

ちを嫌って仲間外れにし、悪口を言い、お前さんたちをろくでなしだと罵るとき、お前さんたちは幸せなのだ。23 そんな日が来たら、喜べ！ 踊れ！ 見ろや、神さまのお膝元での御褒美は、背負いきれないほどどつきりだ！ あの連中の御先祖も、御言持ちたちに同じようろくでもないことをした。

24 しかし、気の毒だなあ、金持ちの旦那がたよ！

お前さんたちの願いは受け取り済みだ。後はない。

25 気の毒だなあ、今満腹なお前さんたちよ！

腹の減る日が来る。

気の毒だなあ、今笑っているお前さんたちよ！

今に泣く。

26 ああ、嫌だ、嫌だ、ぞつとするぜ、世の中の連中が皆でお前さんたちをチャホヤ誉めそやすそのときはよ。あの連中の御先祖たちも、偽の御言持ちたちにチャホヤと同じことをしたものだ。」

三四・敵であつても大事にしろ

参照 マタイ 5 38-48 7 12

「²⁷俺の言葉に耳を傾けているお前さんたちに言う。敵であつてもどこまでも大事にし続けろ。お前さんたちを嫌っている者たちにも親切を尽くし続けろ。²⁸ お前さんたちに災いを祈っている連中によいことがありますようにと願ひ続けろ。お前さんたちをいじめている者たちのために何をしてやったらよいか教えてくださりませと願ひ続けろ。²⁹ お前さんの頬を叩く者には、もう片方の頬も差し出し続けろ。お前さんの上着を奪おうとする「³⁰追い剥ぎのような」やつには、下着も断るな。誰でもあれ、くれという人にはくれ続けろ。お前さんの持ち物を奪う者に、返せ、返せと言っているのをやめろ。³¹ 誰かが自分にこうしてくれたらなあと思うことをその通りに人にもしてやり続けろ。

³² 自分を大事にしてくれる人を大事にしているからといって、何か誉められるようなことをしている

とでも思っているのかね、お前さんたちは？ ろくでなしの罰当り者どもであつても、自分を大事にしてくれている人を大事にしているものだぜ。

³³ 自分によくしてくれている人によくしたからといって、何か誉められるに値することをしていても思っているのかね、お前さんたちは？ ろくでなしの罰当り者どもだつて、そのくらのことはしているぜ。

³⁴ 返してもらう当てのある人に貸したところで、何か誉められるに値することをしたとでも思っているのかね、お前さんたちは？ ろくでなしの罰当り者どもだつて、返してもらう当てがあればこそ、ろくでなし仲間へ貸すのだよ。

³⁵ そうではなくて、敵であつてもどこまでも大事にし続けろ。人には親切を尽くし続けろ。返してもらうことなど何もあてにせず、貸し続けろ。そうすれば、お前さんたちは必ずや大いに報われる。そうしてこそ、お前さんたちは神さまにとつての愛し子だ。神さまは、恩知らずな者どもにも悪者どもに

も情け深いお方でおありなさる。

36 父さまが太つ腹でお情け深くおありなさるよう
に、お前さんたちもまた太つ腹で情け深くあり続け
ろ。」

三五・人の善し悪しを言っているのはやめろ

参照 マタイ 7 1-5、マルコ 4 24-25

「37 人の善し悪しを言っているのはやめろ。そうす
れば、お前さんたちも決して善し悪しを言われな
い。人を悪者に行っているのをやめろ。そうすれば、
お前さんたちも決して悪者にされることはない。ど
こまでも赦し続けろ。そうすれば、お前さんたちも
赦してもらえろ。」

38 与えて、与えて、与えてやれ。そうすれば、お
返しにお前さんたちも与えられる。人はお前さんた
ちの懐に、量りをよくして、押し入れ、揺り入
れ、溢れるくらいに入れてくれる。何とならば、お
前さんたちが人に量ってやるその杓で、お前さんた

ちもお返しに量ってもらえるものだからだ。」

39 イエシュエさまはまた、たとえをもつて弟子た
ちに語って聞かせなさった。

「盲い^{めし}が盲いを手引きできるか？ 二人ながら穴に
落ちるのではないかな？」

40 弟子というものは師匠には勝らない。しかし、
すっかり修業が仕上がったら、誰でもその師匠ぐら
いにはなる。

41 弟の目玉の中にある大鋸屑^{おがくず}が見えていて、自分
の目玉の中にある丸太ん棒^{いっしやう}には一向気がつかないで
いるのはなぜだね？ 42 自分の目玉の中にある丸太
ん棒を見ないでいて、『弟よ、お前の目玉の中にあ
る大鋸屑を俺に取り除かせろよ』などと、どうした
ら言えるものかね？ 御立派ぶりの大根役者殿よ、
まずお前さんの目玉からその丸太ん棒を放り出せ。
そうすれば、はつきり見えるようになって、弟御
の目玉の中にある大鋸屑も取り除いてやれるようにな
る。」

・・・お弟子さんたちと一緒にイエス様は山から降り、平地に足を付けて立ちました。そこには大勢のお弟子さんたちがおり、また、ものすごい人数の人々がいました。その人々は、首都圏であるユダヤ地方の全土から、とりわけ首都であるエルサレムからやって来ていました。また、海沿いのギリシア都市国家であるティルスとシドンからも、やって来ていました。その人々は、あるいはイエス様の話を聞くために、また、病気を治してもらうために、来ていました。そこには穢れた霊に振り回されて、周囲に流され有象無象の大衆となってしまう人々がいたのです。そして、その人々は癒されて行きました。この大衆化された人々・右も左も弁（わきま）えなくなっている有象無象の群衆は、何とかしてイエス様に触ろうとしました。と言うのも、イエスさまからは不思議な力が流れ出て、人々をさっぱりと綺麗に癒して行ったからです。（どうぞ、この様子に、教会の姿を重ねてイメージしてください）

イエス様はその群衆の苦しい低みから目を上げて、お弟子さんたちを見つめました。そして、こう語り始めたのでした。

「幸せ者だ。

貧しい人々は。

神さまが取り仕切ってくださる国は、
あなたたちのものだ！

幸せ者だ。

今、おなかをすかせて
苦勞している人々は。
おなか一杯になるぞ！

幸せ者だ。

悲嘆にくれて涙を流すあなたたちは。
きっと、笑顔でいっぱいになるぞ！

幸せ者だ。

嫌われ、憎まれているあなたたちは。
差別され、
いつも責められている人々は。

幸せ者だ。『人の子』である私のために
『悪人』とされ、
のけ者にされるあなたたちは。

そんな時には、喜ぶのだ！

飛び跳ねて喜べ！
いいか、よく見て見ろ。
天での報いは大きいぞ！
あの連中は、代々（だいだい）、
まさにそのように、
預言者たちにしてきたのだから。」

「さて、呪われているのは、
富んでいるあなたたちだ。
もうすでに、
必要を満たされてしまっている。

呪われているのは、
おなか一杯になっている
あなたたちだ。
もうすぐ、あなたたちは空腹になる。

呪われているのは、
今、笑っているあなたたちだ。

誰にでも、そうするのだ。

あなたが持っている物を
欲しがる人がいたら
返してもらえるかどうかなど
忘れて、渡してしまえ。

誰かに対して、

『あいつらは、こうすべきだ』と
思うことがあるならその通り、
その『誰か』にしてやるんだ。」

「なあと。

あなたたちを大切にしてくれる人を
あなたが大切にしたところで、
そこからどんな御利益が
得られるものでもないだろう？
神さまからの御利益から
まったく外れているはずの
あの頓珍漢な大馬鹿者でも、
自分を大切にしてくれる人は、
大切にしているじゃないか。

あなたたちにとって

都合の良いことを
してくれる人たちには
その人たちの都合を
考えてあげるだろう。
もしそうだとしても
そこからどんな御利益が
得られるものでもないだろう？
あの頓珍漢な大馬鹿者でも、
同じことをしているじゃないか。

『この人だったら返してくれるだろう』
と期待できる人たちに
何かを貸し与えたところで、

もうすぐ、
後悔の痛みに呻（うめ）き、
泣きわめくことになる。

呪われているのは、
みんなに褒められている
あなたたちだ。

あの連中は、代々（だいだい）、
まさにそのように、
偽（にせ）預言者たちに
してきたのだから！」

「だが、今、
私の声を聴いている人たちに、
私は言うておく。
あなたたちの敵を大切にして、
大盤振る舞いしてやれ。

あなたたちを憎む人々には、
美しく親切なことをしてやれ。

あなたたちを呪ってくる人々を、
祝福してやるのだ。

悪意を持って
向かってくる人のために、
神さまへのとりなしの祈りを
ささげてやれ。

頬をひっぱたく人がいたら、
反対の頬を向けてやれ。

上着を奪おうとする人に
行き当たった時は
下着も奪おうとするだろうから、
その通りさせてやれ。
求める者には与えてしまえ。

そこからどんな御利益が
得られるものでもないだろう？
あの頓珍漢な大馬鹿者でも、
同じ頓珍漢仲間に、
『こいつだったら返してくれる』
と期待して、
何かを貸し与えたりしているぞ。」

「いいか、仇敵（きゅうてき）を、
大事にするんだ。

敵の都合のいいことをしてやれ。

『どうせ、あいつは』という

絶望を捨てろ。

いいから、貸してやれ。

そうしたら、あなたたちは

大きな報いを得る。

『いと高き方』の子どもになれるぞ。

いいか、『いと高き方』は、

誰の利益にもならない

碌（ろく）でなしに対しても、

悪人に対しても、

実に優しく親切で太っ腹なお方だ。

あなたたちは、

とにかく、情け深くしなさい。

それはつまり、あなたたちの父上が

情け深くしてくださる、

その通り、あなたたちも、

しなければならないということだ。」

富む者は災いなるかな

(ルカ福音書六章二四—二六節)

先週、私たちは、マタイ福音書に従って、貧しい人々の至福について読んだ。きょう、私たちは、ルカがその至福に続いて述べている、富裕な人々の永遠の罰を聞くことにする。

しかし、それに反して、富む者はわざわいである。あなたたちは、すでに慰めを受けてしまったのだから。今、飽き足りているものはわざわいである。あなたたちは飢えるであろうから。いま笑うものはわざわいである。あなたたちは泣き悲しむだろうから。

私は言った。裕福な人々に告知される罰の理由がただまったく、彼らが裕福であり、その喜びを味わってしまったという点にあるのは、興味深いことだ。これは「悪い」金持が話題になっているのではない。

トマス・ペーニア ひょっとすると、そういう人たちだって悪いかも知れませんでした。自分のところの労働者をひどく扱う人々も居りますだよ。または、その人たちはもう、何でも持っていっちゃ

るだから、神さまのことなんて心配しなさらねえだよ。僕らのような人間は、何も持つちゃあいいえし、だからいつだって、神さまのことを考えていますだ。どうやってこの苦境を脱しようかってね。だからと言って、金持が一銭だってくれるわけじゃあないし、僕らだって受けとりゃあ致しませんだ。恐らく、そうに違いございませんでしょうが……

アレファンドロ ルカがここに、貧しい人々の至福に対する対立物を持ち出したのは、もっともなことだ。なぜなら、そうしなければ人間は、富裕な人間たちにもまた他の至福がある、少なくとも少数の富裕な人々には、って考えてしまうでしょうからね。ルカがここで僕たちに示しているのは、そうではなくて、キリストにとって人間は、明らかに異なった二つの階級に分けられているということなんだ。キリストは一方の階級の味方はなさるが、他の階級には反対なんだ。

ラウレアノ それこそが真に革命的なんだ。キリストは「きょう、上手く^{うま}行っているすべての人は、あすには具合が悪くなるだろう」って言っている。パン・ケーキは裏返されるといふことさ。オリヴィア むしろ私は、ここでイスエさまは、お金持たちの冷酷さを批判しておいになるんだと思う。他の人々が苦しんでいる時に、楽しむためには固い心が必要だわ。あるいは、他の人々が飢えている時に、飽食するためにはね。

マルセリーノ それはただ単に冷酷さだけじゃないだろう。富が天国からでも降って来たと云うのなら、それは恐らく、そんなに悪いことじゃないかも知れないが。しかし、明らかに富は他の人々の労働から出たものなんだからね。たとえば、ひとりの男が千ヘクタールの綿花の畑を持っていたとす

るね。しかし、それは彼自身が働いているのではなくて、他の人々が働いているんだ。そして、その男が或る祝宴を催したとすると、それは他の人々のこの労働の生産によっているんだ。金持たちはトマス爺さんの言ってるように、与えるかわりに、取る一方なんだよ。

ウィリアム 旧約聖書の預言者たちは、被圧迫者の救済と圧迫者たちの没落を預言している。この両者は切っても切れないものだからね。彼らは、すべての人々の救済を語ることはできなかった。キリストはこれと同じ路線上で説き続けたんだ。

フェリペ ここではキリストはまったく明らかに貧しい人々の側についている。しかし、福音書は金持たちの解放でもあり得るよ。なぜならばこの変革は、欲すると欲さないにかかわらず、彼らに福音書に従って生きること強制するものだから。だが、僕たちキリスト教徒は、神が独力でこの変革を招かれるのを待ちのぞんでいてはならず、僕たちもそれに則^{したが}して共に働かなければいけないんだ。僕の考えによれば、僕たちは金持たちの解放のために働く義務があるんだ。そんなことはわれわれには何の関係もない、金持なんて、あのまま放っておけばいいんだ、彼奴^{おやつ}らはもう楽しみを得てしまっているんだから、って言う人たちもいくら居るよ。しかし、僕たち、キリスト教徒は、お金持にだって、解放を説かなきゃいけないんだ。キリストはそのこともしておいでになる。聖書のこの箇所で、キリストは自分の前に金持を見ていたから、彼らの方を向いて、「わざわざいなるかな、あなたたち富める者は」と言われたことが解るね。

アレファンドロ しかし革命は、きっと金持たちが、今度は彼らの方こそ、飢えに苦しみ、貧困を

味わったりすることになるなどとは望んではまい。革命が勝利すれば、もはや貧困など存在しないからだ。すべての人間が平等になるんだ。しかし、金持たちは、その財産を失えば、キューバを去った多くの人々の身に起こったとまったく同じように、自分たちを貧しくなったと思うだろう。彼らは飢餓感を持つだろうが、しかしそれはほんとうの飢餓ではなくて、ただ所有欲への飢餓に過ぎないんだ。オリヴィアでもこれらすべてのことは、もっと違う生活に関連したことだと、私は思うの。なぜなら、キリストが話しかけられた富者たちは、キューバから何処かの国へ亡命しなければならなかったわけでもないし、その他何かの事件が出来たわけでもない。彼らはいつだって、飽食していたのよ。もし、預言がその他の生活で実現しなかったとしたら、イエスのお言葉は無意味だったことになるわ。

私は言った。——そうだね、私もこの箇所で言われている社会的な変革は、しかし、同時に他の生活においても起こることだと思ふんだが。

私たちは最後の節に移った。

みんなから賞めそやされるとき、あなたたちはわざわいである。彼らの先祖は、偽にせの預言者に対して、同じことをしたのだ。

私は言った。——すべての人が彼らを賞めそやすということが、イエスにとっては悪いことだっ

た、というのがつねに私の注意を引く。イエスは、この箇所ではたとえば悪人たちが賞め、善人たちが誇る、あるいはまたその逆といったように、意見が分かれるという可能性を考慮しておられたんだね。

チャエル　もしかすると、善人がとても数少なかったからじゃないんですか？

トマス・ペーニア　または大勢いたかも知れねえが、ほかならず貧しかったんだ。僕の場合のように文字の読めねえ人も居ただろうし、文字を書けねえ人も、それよりは少なかつたとしても居ましたろうが……。そんなこんなで、貧しい人間の意見てのは、全然、考えられなかつたですよ。イエスさまが、「あなた方が、皆から賞めそやされるとき」とか、「あなた方が、皆からざん言されるとき」とおっしゃるときにゃあ、イエスさまは確実に、そもそもしゃべれる人間のことを言っていた。だから、新聞やラジオが役に立たねえ、たとえば……

ラウレアノ　そうだ、それは確かだ。この体制と上手く調子を合わせている聖職者たちを、皆がラジオで賞めそやす。そして政府に反対して抗議している聖職者については、皆が悪く言うんだ。すべてのラジオ放送が、革命的な聖職者たちを誹謗している。

私は言った。——きみの言うことはまったく正しい。ここにおいでの人たち、何人かの人たちは、ラジオで私が非難されたのを聴いて、衝撃を受けている。しかし、衝撃を受けたりする必要は少しもないんだよ。聖書が言っているね。「すべての人が私たちを賞めそやすとき、私たちはわざわざいなるかな」とい

うわけなんだ。これと同じようなことが偽の預言者たちに起きている。聖書では、真の預言者と同時に、しばしば、偽の預言者も登場して来る。彼らは王たちの政治を弁護する王たちの手先で、金持ちの良心を宥め、民衆を混乱させていた。彼らは変革の告知などということについては何も知らなかったし、その状態がそのままに受け入れられるように、すべてがそのまま進んで行くとのみ預言するだけだった。イザヤの言葉によれば、彼らの知らせというのはこんなものだった。「あすもきょうのようであろう」。イエスがこの偽の預言者たちについて、すべての人が彼らを賞めそやす、と言ったことは興味深いね。なぜなら、実際その通りだったんだから。すべての人間が、歴史の記述者たちでさえ、つねに搾取の体制の側に立っていた。それに反対して何かを言っている書物としたら、それは聖書だったんだ。

トニー 偽の預言者たちは、権力の座についている者たちに対して、ただ良いことだけを言ってるんですね。今、ソモサの新聞、『ノヴェダーデス』に書いている、ジャーナリストたちとまったく同じなんだ。

トマス・ペーニア あるいは、この土地で、僕らが言ってるようにですかい。「お前らのパンは風まかせだよ」って。

私——。トマスが言ったように、彼らが自分たちのパンを風まかせにしたって言うことは、権力とその時々々の状態に従っていたということなんだね。それに対してキリストは、「あなたたちのパンを風まかせにする者は、わざわいなるかな」って、言っておいになるんだよ。